

平成25年度 日本デザイン学会 第60回総会

■日時：平成25年6月21日(金)
13:00~14:00

■会場：
筑波大学 大学会館

総会資料

*本冊子は総会資料を綴じ合わせたものです。
限られた時間ですので十分な説明もできかね
ると思いますが、その節は本冊子によくお目
をお通しくださいまいすようお願い申し上げ
ます。

■次第	■司会：佐藤弘喜 本部事務局長
1. 総会成立の確認ならびに開会宣言	佐藤弘喜 本部事務局長
2. 会長挨拶・活動方針説明	山中敏正 会長
3. 議長団選出	佐藤弘喜 本部事務局長
4. 議事	議長団
4.1. 平成24年度活動報告	松岡由幸 副会長
(1) 論文審査委員会	久保光徳 委員長
(2) 作品審査委員会	清水泰博 委員長
(3) 学会誌編集・出版委員会	岡崎章 委員長
(4) 研究推進委員会	須永剛司 委員長
(5) 企画委員会 総合企画	松岡由幸 委員長
(6) 企画委員会 支部企画	浅沼尚 前委員長 両角清隆 委員長
(7) 教育・資格委員会	山内勉 委員長
(8) 広報委員会	山崎和彦 委員長
(9) 財務委員会	生田日美紀 委員長
(10) 市販図書企画・編集委員会	井上勝雄 委員長
(11) 平成24年度春季研究発表大会実行委員会	酒井正幸 実行委員長
(12) 平成24年度秋季企画大会実行委員会	塚原肇 実行委員長
(13) 学会各賞選考委員会担当	松岡由幸 担当理事
(14) Designシンポジウム担当	松岡由幸 担当理事
(15) IASDR担当	古屋繁 担当理事
(16) 日本学術会議担当	清水泰博 担当理事, 森田昌嗣 担当理事
(17) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当	松岡由幸 担当理事
(18) 日本工学会担当	國澤好衛 担当理事
(19) 本部事務局	佐藤弘喜 本部事務局長
(20) 第1支部	両角清隆 支部長
(21) 第2支部	浅沼尚 支部長
(22) 第3支部	國本桂史 支部長
(23) 第4支部	三橋俊雄 支部長
(24) 第5支部	伊原久裕 支部長
(25) 教育部会	金子 武志 主査
(26) 家具・木工研究部会	阿部 眞理 主査
(27) プロダクトデザイン研究部会	山崎 和彦 主査
(28) 環境デザイン研究部会	清水 泰博 主査
(29) デザイン史研究部会	立部 紀夫 主査
(30) デザイン理論・方法論部会	松岡 由幸 主査
(31) 情報デザイン研究部会	山崎 真湖人 主査
(32) ファッションデザイン部会	常見 美紀子 主査
(33) 創造性研究部会	永井 由佳 主査
(34) サービスイノベーションデザイン研究部会	古屋 繁 主査
4.2. 平成24年度決算報告	佐藤弘喜 本部事務局長
4.3. 平成24年度会計監査報告	青木弘行 監査, 野口尚孝 監査
4.4. 平成24年度決算審議	議長団
4.5. 平成25年度活動計画	須永剛司 副会長
(1) 論文審査委員会	久保光徳 委員長
(2) 作品審査委員会	清水泰博 委員長
(3) 学会誌編集・出版委員会	岡崎章 委員長
(4) 研究推進委員会	須永剛司 委員長
(5) 企画委員会 総合企画	松岡由幸 委員長
(6) 企画委員会 支部企画	両角清隆 委員長
(7) 教育・資格委員会	山内勉 委員長
(8) 広報委員会	山崎和彦 委員長
(9) 財務委員会	生田日美紀 委員長
(10) 市販図書企画・編集委員会	井上勝雄 委員長
(11) Designシンポジウム担当	松岡由幸 担当理事
(12) IASDR担当	古屋繁 担当理事
(13) 日本学術会議担当	清水泰博 担当理事, 森田昌嗣 担当理事
(14) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当	松岡由幸 担当理事
(15) 日本工学会担当	國澤好衛 担当理事
(16) 本部事務局	佐藤弘喜 本部事務局長
(17) 第1支部	両角清隆 支部長
(18) 第2支部	浅沼尚 支部長
(19) 第3支部	國本桂史 支部長
(20) 第4支部	三橋俊雄 支部長
(21) 第5支部	伊原久裕 支部長
(22) 教育部会	金子 武志 主査
4.6. 平成25年度予算案説明	佐藤弘喜 本部事務局長
4.7. 平成25年度予算案審議	議長団
5. 議長団退席	佐藤弘喜 本部事務局長
6. 名誉会員証贈呈	山中敏正 会長
7. 閉会挨拶	佐藤弘喜 本部事務局長

平成25年度日本デザイン学会活動方針

会長 山中敏正

基本方針

－ デザイン学のさらなる普及と活用に向けて －

こころの世紀といわれる21世紀が始まって10年が経過し、科学・工学の発達は、人のこころの理解に基づく物質や情報の価値を明らかにする可能性を見せ始めています。一方で、阪神淡路大震災の経験も生々しいうちに東日本を襲った未曾有の大災害によって物質性とこころの状態の乖離にも改めて気づかされています。

デザインが目指すものは充実し心地よく希望を持てる心の状態であり、それを支えるメディアとしての形や機能や情報の設計です。今や、人間社会が生み出すもの全てが、「人のこころにどのように響くのか」ということを基準として評価されざるを得ないということが明らかになっているなか、デザイン学はますます社会に必要な研究として位置付けられるべきであると言えるでしょう。

学会運営では、平成20年度からの4年間で会員制度に大きな改革が加えられ、昨年度から学生会員の学会参加が可能となりました。学会誌はCiNiiを活用した創刊号からの電子化が完了し、J-Stageを活用したオンラインジャーナル化・オンライン査読システムの活用を開始しました。また、学会の積年の努力の賜である、科学研究費補助金における複合領域の分科としてデザイン学研究のさらなる活性化を推進する必要があります。国際面では、10年ぶりに日本学術会議・日本感性工学会との共同主催で開催するIASDRを学会の総力を挙げて成功させなくてはなりません。

新たな陣容として活動を開始して1年が経過しましたが、2年度目は、情報流通システムを活用して学術基盤を獲得したデザイン学を国内外に広く普及させ、さらに実践におけるデザイン学の活用も視野にいれつつ、広く充実した研究者のソサエティ構築に向けて、理事会一丸となって活動を展開してゆきたいと考えています。

会員諸氏、関係の皆様方の一層のご支援やご協力を
お願い申し上げる次第でございます。

基本施策

1. 学会活動の基盤としての、論文・作品・記事のありかたに関する検討
 - ・論文・作品の適切な審査と、審査基準・対象の再構築
 - ・電子化した論文審査の活用と国際化の推進
 - ・編集出版委員会主導によるオンラインジャーナル化推進と、デザイン学会らしい電子化の可能性を検討
2. 国際化、国内外他学協会、産官との事業連携強化
 - ・IASDR2013の運営・実施
 - ・デザイナーの資格制度と継続教育（CPD）、ア krediyションのあり方に対する検討
 - ・産業界との連携強化
 - ・国際デザイン学会誌発刊に向けた協力体制の確立
3. 学術環境の整備
 - ・科学研究費補助金・分科「デザイン学」のさらなる拡充に向けた研究活性化の推進
4. 春季研究発表大会、秋季企画大会の活性化
 - ・オーガナイズドセッション・学生プロポジション等を活用した産学官協力研究と広報体制の充実
 - ・春季発表件数の増加策、秋季企画内容の充実策検討
5. 会員制度の拡大と財務の改善
 - ・学生会員制度を活用した学会活動の活性化
 - ・制度拡大に伴う財務基盤の整備
 - ・インセンティブ施策の検討
6. 法人化に向けた検討
 - ・法人化に向けた対応策と体制確立に向けた具体策検討
7. 支部活動活性化策のさらなる推進
 - ・支部間、学会との活動情報・成果の共有と連携強化
 - ・活動単位（支部地区割）の検討
8. 研究部会のあり方に対する検討
 - ・研究部会主導による学会編纂図書刊行
 - ・講習会・セミナー等の開催
 - ・専門的、横断的課題による競争的外部資金獲得策検討
9. 広報活動の強化
 - ・協賛・広報活動を通じた、関連学会との連携強化
 - ・学会ホームページ充実策の検討
10. 会則、諸規定のタイムリーな見直し

平成25年度 会長, 副会長, 理事一覧

会長	山中 敏正	筑波大学 芸術系
副会長	松岡 由幸	慶應義塾大学 大学院 総合デザイン工学専攻
	須永 剛司	多摩美術大学 美術学部 情報デザイン学科
監査	青木 弘行	
	野口 尚孝	フリーランス
理事	青木 史郎	公益財団法人日本デザイン振興会
	浅沼 尚	株式会社 東芝 デザインセンター
	池田 岳史	福井工業大学 工学部 デザイン学科
	井上 勝雄	広島国際大学 心理科学部 感性デザイン学科
	伊原 久裕	九州大学 大学院芸術工学研究院 コンテンツ・クリエイティブデザイン部門
	岡崎 章	拓殖大学 工学部 デザイン学科
	小野 健太	千葉大学 大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	片岡 篤	日本大学 芸術学部 デザイン学科
	黄 ロビン	名古屋学芸大学 デザイン学科
	清水 泰博	東京芸術大学 美術学部 デザイン科
	國本 桂史	名古屋市立大学 大学院 芸術工学研究科
	久保 雅義	京都工芸繊維大学 大学院 工芸科学研究科
	久保 光徳	千葉大学 大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	佐藤 弘喜	千葉工業大学 工学部 デザイン科学科
	杉下 哲	東京工芸大学 芸術学部 デザイン学科
	高野 修治	湘南工科大学 工学部 コンピュータデザイン学科
	田村 良一	九州大学 大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門
	永井 由佳里	北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科
	中嶋 猛夫	女子美術大学 芸術学部 デザイン工芸学科 環境デザイン専攻
	生田目 美紀	筑波技術大学 産業技術学部 総合デザイン学科
	萩原 将文	慶應義塾大学 理工学部 情報工学科
	橋田 規子	芝浦工業大学 デザイン工学部
	蓮見 孝	札幌市立大学
	細谷 多聞	札幌市立大学 デザイン学部
	三橋 俊雄	京都府立大学 大学院 生命環境科学研究科 環境デザイン学科
	森田 昌嗣	九州大学 大学院 芸術工学研究院
	両角 清隆	東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科
	山内 勉	福井工業大学 工学部 デザイン学科
	山崎 和彦	千葉工業大学 工学部 デザイン科学科
特設理事	工藤 芳彰	拓殖大学 工学部 デザイン学科
	國澤 好衛	産業技術大学院大学 産業技術研究科
	杉山 和雄	芝浦工業大学 デザイン工学部
	寺内 文雄	千葉大学 大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	古屋 繁	芝浦工業大学 デザイン工学部

平成25年度 日本デザイン学会組織



平成25年度 日本デザイン学会 委員会等一覧

○運営理事, * 特設理事, + 幹事長

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	○ 佐藤 弘喜	小野 健太	+ 八馬 智

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	○ 久保 光徳	松岡 由幸 森田 昌嗣 萩原 将文	+ 小山 慎一 岡田 栄造 加藤 健郎 境野 広志 萩原 祐志
作品審査委員会	○ 清水 泰博	須永 剛司 高野 修治 生田目 美紀	+ 山内 貴博 加藤 健郎 永盛 祐介
学会誌編集・出版委員会	○ 岡崎 章	黄 ロビン 永井 由佳里 (会報担当兼務) 寺内文雄 * 工藤 芳彰 *	
研究推進委員会	○ 須永 剛司	久保 雅義 中嶋 猛夫 杉下 哲	+ 吉橋昭夫 平松早苗
企画委員会 総合企画	○ 松岡 由幸	山崎 和彦 池田 岳史	+ 佐藤 浩一郎
支部企画	○ 両角 清隆	浅沼 尚 國本 桂史 三橋 俊雄 伊原 久裕	+ 北村 武士 柚木 泰彦 滝本 成人 益岡 了 井上 貢一
教育・資格委員会	○ 山内 勉	青木 史郎 片岡 篤 蓮見 孝	+ 小野 健太 蘆澤 雄亮 横田 英夫
広報委員会	○ 山崎 和彦	小野健太	+ 内山 俊朗 大島 直樹 中本 和宏
財務委員会	○ 生田目 美紀	佐藤 弘喜	+ 大嶋 辰夫
市販図書企画・編集委員会	井上 勝雄	松岡 由幸	+ 佐藤浩一郎
春季研究発表大会概要集編集委員会	細谷 多聞	橋田 規子 久保 光徳	+ 柿山 浩一郎

委員会等担当	担当
学会各賞選考委員会担当	松岡 由幸
春季研究発表大会担当	細谷 多聞
秋季企画大会担当	山崎 和彦
Designシンポジウム担当	松岡 由幸
IASDR担当	古屋 繁* 杉山 和雄* 山中 敏正
日本学術会議・日本工学会担当	清水 泰博 ^(第一) 森田 昌嗣 ^(第三) 松岡 由幸 ^(横幹連合) 國澤 好衛* ^(日本工学会)

支部	支部長	副支部長	幹事
第1支部(北海道・東北地域)	両角 清隆	細谷 多聞	+ 柚木 泰彦 梅田 弘樹 姜 南圭 福田 大年
第2支部(関東地域)	浅沼 尚	久保 光徳	+ 北村 武士
第3支部(北陸・中部地域)	國本 桂史	黄 ロビン	+ 滝本 成人 池田 岳史 廣瀬 伸行 西尾 浩一 加藤 大香土
第4支部(近畿・中国・四国地域)	三橋 俊雄	久保 雅義	+ 益岡 了 比嘉明子
第5支部(九州・沖縄地域)	伊原 久裕	田村良一	+ 井上 貢一 本間 康夫 松本 誠一 岩田 敦之 尾方 義人

選挙管理委員会 *平成25年7月31日まで	委員長	委員
	伊豆 裕一	小野 健太 工藤 芳彰 佐々木 美貴 永見 豊

監査	
	青木 弘行 野口 尚孝

平成24年度活動報告

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

日頃は「デザイン学研究」にご投稿いただき大変お世話になっております。昨年度も、多くの会員の皆様から貴重な研究成果をお寄せいただき、第59巻1号（通巻211号）から第59巻6号（通巻216号）までを刊行させていただきました。多少の遅れはありましたが、比較的順調に発刊できましたことは、ご投稿いただいた方々、査読員の方々の並々ならぬご尽力の賜であると、心より感謝申し上げます。また、第58巻5号からのJ-STAGEを利用した論文公開に加え、今年の1月からは電子投稿システムも稼働し、論文投稿・審査および「デザイン学研究」発行の効率化を図ることもできました。4月からこのシステムに完全に移行しておりますのでさらに広く多様な研究領域からの投稿が期待できるのではと期待しております。

昨年度の投稿件数は122件で、一昨年度の投稿件数の120件を若干上回っております。また、平成24年度に採択された論文は、投稿区分ごとに「論文」27本、「報告」12本、「論説」2本、「却下」14本となりました。現在のところ、文書での論文審査と電子システムによる審査が併用されている状態で、査読員の方々にも、これまで以上にご迷惑をお掛けしている状況でございますが、できるだけ速やかに新システム移行に伴った諸問題を解決し、効果的な審査システムを構築していきたいと思っておりますので、今後ともなにとぞご協力下さいますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員会運営にご尽力いただきました幹事の先生方、そして、快く査読をお引き受けいただきました査読員の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

作品審査委員会

委員長 清水 泰博

多くの会員の皆様から作品集に御応募頂きありがとうございました。おかげさまで2012年度作品集18号を発行することが出来ました。3年前から実施されている「作品論文」とDVDの「作品ムービー」との構成による形を本号でも踏襲したものとなっています。ムービーが添付されることによって内容の解りやすくなった作品も多く、この試みもほぼ定着してきたようです。2012年度作品集には14件の作品（うち4件が作品ムービーを伴う）を掲載出来ました。

昨年度より、作品集審査・編集委員会による作品集から、作品審査委員会と編集出版委員会の共同作業による作品集となりました。これは作品審査委員会は作品審査に特化し、出版物については編集出版委員会が学会からの出版を一元化しようとする試みです。1年を経たの印象ではその作業区分の明確化の難しさがまだあるようです。これは今年度以降に検討すべきことかと思われまふ。

委員会活動においては、投稿規定、執筆要領等の募集内容についての見直しを行いました。これは論文集において既に行われているJ-STAGEでの公開を作品集においても行う為の前提作業です。作品集のDVD化によってデジタル化は既に出来ていますので、近い日にはJ-STAGEへの公開が出来ることになると思われます。

最後に、本18号に応募・投稿頂きました皆様、快く審査を引き受けて頂きました専門審査委員の皆様、そして委員、幹事の先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

学会誌編集・出版委員会

委員長 岡崎 章

平成24年度におきましては、特集号（年4冊）として「デザイン思考」（20

巻1号、通巻77、担当：永井由香里）と「手から手へ」（20巻2号、通巻78、担当：阿部眞理、白石照美）、「子どものためのデザイン01」（20巻3号、通巻79、担当：岡崎章、工藤芳彰）、「デザイン教育」（20巻4号、通巻80、担当：黄ロビン）を刊行しました。

会報につきましては、200-204号を発行しました。

論文集に引き続いての作品集、特集号の電子化、およびそれにともなう出版形態の再考につきましては、平成24年度の中心的な課題でしたが、電子化する際の著作権対応の確認に予想外の時間を要し、次年度継続となりました。これにつきましては、年度末までに関係各所との調整をほぼ終えましたので、平成26年度からの電子化を目標として、着実に作業を進めていく予定です。

なお、編集委員は黄ロビン、永井由佳里、寺内文雄、工藤芳彰です。

研究推進委員会

委員長 須永 剛司

研究推進委員会では、①研究部会の活性化、②秋季大会学生プロポジション企画運営、③春季大会テーマセッションの募集ととりまとめ、④同学生交流ワークショップ企画と募集、さらに⑤研究推進に関わる学会規定の見直しを行いました。また、今回の春季60回大会ではその記念イベントとして⑥デザインの実践知をテーマに「特別フォーラム」企画立案をおこないました。

①研究部会の活性化：本学会の研究部会15部会の主査へ「部会の概要」に関するアンケート調査を実施。10部会から回答ありました。今後のサポートへつなげます。

②秋季大会プログラムの「学生プロポジション」の企画運営：開催校である実践女子大学の塚原肇実行委員他メンバーと研究推進委員メンバーが協力し、多くの学生作品が参加する展覧会を実現しました。発表（出展）応募件数は62件。当日の発表（出展）件数

は 58 件（2 件発事前キャンセル、2 件当日現れず）でした。研究推進委員会委員長名で「Attractive Award 魅力的で賞」1 件「Reflective Award 思索的で賞」2 件「Creative Award 独創的で賞」2 件の合計 5 件の表彰をしました。

③春季大会テーマセッションの募集ととりまとめ：5 名の企画者（3 研究部会と 2 学会員からなる）から応募された 10 のテーマが理事会で承認され、本春季大会の口頭発表プログラムとして実施される運びとなりました。

④春季大会学生交流ワークショップの企画と募集：「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのだろうか？ Design thinking and acting：What and how do design students learn?」を企画、理事会の承認を経て、広く募集を行いました。

⑥デザインの実践知をテーマに「特別フォーラム」企画立案：「実践するデザイナーたちのデザイン知とはなにか？ Exploring the wisdom of design in professional practices」を主題として、そこから見いだされたものをデザインの実践知として公開し議論する場を企画。これまでデザイン学研究作品集に投稿した学会員ほか、学会員以外の実務家を対象に 3 月に募集を開始しました。

⑤学会規定の研究推進委員会規定と研究部会統括運営細則を現在の学会活動との整合性を図るためにその見直しをおこなっています。

企画委員会 総合企画

委員長 松岡 由幸

昨年度の企画委員会総合企画は、デザイン学研究の推進とその訴求を通じて、デザイン学の学術としての充実ならびに実務への活用拡大を狙いとししました。特に、産学連携に視座をおき、活動を進めて参りました。

まず、6 月 22 日から 24 日にかけて、札幌市立大学で実施された春季大会では、オーガナイズドセッションとして、「つなぐ 環境デザインがわか

る」、「キッズデザインの展開」、「これからの日本のモノづくりとデザイン」、「演習課題から探るデザイン思考の特質」の 4 件、ならびに学生交流ワークショップとの連携企画として「磁場から生まれるこれからのデザイン」が実施されました。

また、11 月 17 日（土）に実践女子大学にて実施された秋季企画大会においては、創立 60 周年を迎える JIDA との共同主催のもと、これからのデザインについて、基調講演、学生プロポジション、パネルディスカッションなどは行われました。

春季大会、秋季企画大会ともに、多くの方々に、ご尽力を賜りました。ここに、新ためて感謝の意を表する次第です。

企画委員会 支部企画

前委員長 浅沼 尚

委員長 両角 清隆

今年度も各支部ともに支部大会を開催するなど、大変活発な活動が展開されました。また、そのなかで地域の特有性を活かした産学連携と若手の参画の両者を狙いとし、総合企画と連動しつつ、活動を推進してまいりました。具体的には、デザイン理論・方法論研究部会との連携のもと、企業のデザイナーと大学研究者とのディスカッションの場の設定などを行いました。

これらの諸活動を通じて、若手や企業のデザイナーとのさらなるコラボレーションを進めるとともに、デザイン学会への参画も促進に努めてまいりました。（浅沼尚）

第 1 支部から第 5 支部の各支部による活動は、支部の特色を生かしながら活発に行われました（詳細は各支部報告を参照ください）。なお、支部企画による支部活動に共通した取り組みの支援等は特に実施いたしませんでした。

第 1 支部では、2 年に 1 度開催している支部大会を、2013 年 9 月に東北

工業大学（仙台市）で開催することを決定し、内容について検討いたしました。

第 2 支部では、平成 24 年 8 月 1 日に慶應義塾大学日吉キャンパス協生館を会場として、「デザイン塾：知の統合としての「デザイン科学」とその応用」を開催いたしました。「デザイン科学辞典」編纂に関する説明、「M メソッド」や「タイムアクシス・デザイン」についての講演、研究事例や作品の紹介が行われました。本活動においては、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会をはじめ、デザインに関わる研究・教育者の方々、実務者の方々、学生を含む約 50 名の方に参加いただき、知の統合としてのデザイン科学の可能性について活発な議論が行われました。

第 3 支部では、研究発表大会・懇親会を平成 25 年 3 月 17 日に愛知県立芸術大学名古屋駅サテライトキャンパスを会場に開催いたしました。発表 31 件、参加者は 54 名、他支部からの参加者もあり、学生発表者から「優秀発表賞」4 名を選出・表彰を行いました。また、学生・大学院生のデザイン活動、研究活動の評価のための「奨励賞」もスタートさせました。

第 4 支部では、地域生活文化研究会の一環としての学外演習を、2012 年 8 月 30 日～9 月 1 日に、京都府宮津市由良地区において実施しました。京都府立大学、滋賀県立大学の 31 名が参加し、「自然共生教育」を基本姿勢として、地域連携による生活文化体験学習を行うことができました。また、日本デザイン学会第 4 支部研究発表会を、2013 年 2 月 2 日、京都工芸繊維大学にて開催し、14 件の口頭発表と研究交流のほか、現代アーティストのスプツニ子氏による特別講演「クリティカル・デザインで想像する未来」を京都工芸繊維大学 60 周年記念館で実施いたしました。

第 5 支部では、「九州デザイン大学展 2012 卒業・修了優秀作品展」を 2012 年 6 月 12 日から 17 日まで、福岡市天神地区の商業施設 BiVi 福岡で

開催しました。また「研究発表会・懇親会」を、同年10月27日に九州大学大橋キャンパス（芸術工学部）で開催しました。（両角清隆）

教育・資格委員会

委員長 山内 勉

平成24年度は、2回の委員会を開催し、主要課題である「教育」と「資格」について、情報共有と意見交換を行いました。

「継続教育（CPD）」については、以前に開講した「産業デザイン分野における産学が一体となった実践型人材育成プログラム」のような試みを、内容充実を図りながら実施できないかを検討し、社会人と学生を会員に擁する学会らしいプログラムなどについて話し合いました。

これに関連した検討事項「デザイン実務者の成果発表媒体」については、グッドデザイン賞（Gマーク）との連携などの可能性を検討しました。

「資格制度」については、JIDAがプロダクトデザイン（PD）検定1級、2級制度の上位に位置付けられるプロダクトデザイン・プロフェッショナル認定制度を検討する過程に参画し、上記継続教育（CPD）の仕組みづくりもあわせて検討しました。

また引き続き、技術者教育認定機構（JABEE）の専門職大学院認証評価委員会委員として、その認証業務に関わりました。デザイン分野として関係ある事項としては、産業技術大学院大学産業技術研究科創造技術専攻で創造技術修士（専門職）が認証され、平成25年3月に文部科学省に報告されました。

広報委員会

委員長 山崎 和彦

広報委員会の機能は、会員諸氏と学会活動をつなぐことのマネジメントであると同時に、学会活動と社会、学会活動と世界をつなぐことです。本年

度の主な活動は、1）現在のWebサイトの運営、2）今後のWebサイトの検討、3）SNSの活用、4）協賛学会依頼の検討などの活動でした。1）現在のWebサイトの運営では、現在のWebサイトの運営するとともに、現在のWebサイトのコンテンツ責任者リスト作成の検討、理事・部会長全員がアップデートできるしくみづくりの検討しました。2）今後のWebサイトの検討では、今後のWebサイトのリニューアル方針の検討しました。3）SNSの活用では、Facebookの効果的な活用の検討、Twitterの連動の検討しました。4）協賛学会の依頼では、対象は春と秋の大会に向けて協賛学会のコンタリストの作成の検討しました。広報委員会の構成は、小野健太、中本和宏、大島直樹、内山俊朗です。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に以下の二つの問題に絞って活動して参りました。（1）学生会員制度の導入による財務動向の基礎調査。（2）研究誌等の出版物の電子化の推進。

（1）に関しては、学生会員制度が導入される前後を含めた過去4年間の会員数ならびに収支の動向を精査・評価しました。その結果、学生会員数は順調に増加していますが、学生会員から正会員への移行については、今後の同行をさらに追跡する必要がある事が分かりました。また、学生会員制度の導入によって学会財務上、大きな支障がないことが確認できました。

（2）に関しましては、他の委員会の全面的なご努力により、概要集、研究誌、作品集の電子化が実施される見通しとなりました。

これらの結果、学会の財務内容が今後どのように変化するかについて直ちに結論は出せませんが、この段階での所期の目的はおおむね達成できたと考えられます。

市販図書企画・編集委員会

委員長 井上 勝雄

平成24年度活動について、以下の点をご報告いたします。

日本デザイン学会と日本機械学会、日本設計工学会の3学会からのメンバーを中心とする企画の『デザイン科学辞典』は、その基本構成である30項目の執筆を行い、下記のサイトで発信しています。

http://www.designjuku.mech.keio.ac.jp/_Japanese/_Dictionary_J/index.html

一方、デザイン理論・方法論部会の成果を折り込んだ下記の2冊の書籍を発刊しました。

（1）『タイムアクセス・デザインの時代 ―世界一やさしい国のモノ・コトづくり』（丸善出版、著者；松岡由幸、2012年6月発行）

（2）『ロバストデザイン ―「不確かさ」に対して頑強な人工物の設計法』（森北出版、著者；松岡由幸、加藤健郎、2013年3月発行）

平成24年度 春季研究発表大会実行委員会

実行委員長 酒井 正幸

日本デザイン学会第59回春季研究発表大会（大会長：原田昭）は平成24年6月22日（金）～24日（日）札幌市の札幌市立大学にて開催されました。北海道での春季大会開催は約10年ぶりで、参加者530名、研究発表件数291名と会員各位のご支援により、大変盛況のうちに無事終了いたしました。

今大会のテーマは「地域社会と横断型デザイン」で、様々な課題を抱える全国の地方都市をデザインの力で活性化したいという大会関係者の思いを結集したものです。大会初日は、札幌市長に出席いただき札幌駅前の札幌市立大学サテライトキャンパスにて、開会式および記念講演会を開催いたしました。記念講演は同年4月に札幌市立

大学学長に就任された蓮見孝先生より「地域を変える横断型知力としてのデザイン」と題し、本州から見た北海道の魅力をより高めるための「ポスト“熱い社会”」の可能性についてお話いただきました。またその後のエキスカーションでは札幌市が市民や観光客の足として再生を目指す路面電車内で食事と飲み物を楽しみながら札幌の車窓風景を堪能いただくイベントを実施いたしました。

2日目～3日目は会場を札幌市南区の芸術の森キャンパスに移し、特別セッション、学生交流ワークショップ、一般講演等を実施いたしました。特別セッションでは「地場から生まれるこれからのデザイン」と題し、研究者の他に地元の紙器製造メーカー、玩具デザイナーの方にご講演いただいた。尚、本講演会は引き続いて行われる学生交流ワークショップのオリエンテーションを兼ねたもので、この模様はUstreamを通じて広く市民にもリアルタイム配信されました。その後のワークショップには22名の学生が参加し、「音の鳴る玩具」の企画提案を課題として当日18時から行われる最終プレゼンを目指し、ハードなスケジュールで実施されました。短時間にも関わらず全チームがプロトタイプを提示することができました。

また、札幌市立大学の前身である札幌市立高等専門学校の清家清初代校長の設計による

本学キャンパスの建物とその自然環境を同大学空間デザイン系教員の解説付きで案内する

「キャンパスエコツアー」を開催し、好天にも恵まれ参加者は熱心に解説に耳を傾けていました。

オーガナイズドセッションは、「つなぐ環境デザインがわかる」「キッズデザインの展開」

「これからの日本のモノづくりとデザイン」および「演習課題から探るデザイン思考の特質」の4テーマで実施され、いずれも会場の参加者を交え、パネリストとの活発なディスカッションが行われました。

今回はポスターセッションを含む口

頭発表件数が実行委員会の事前の予測を上回る291件に達し、会場の割り振りに苦労しましたが、外光を取り入れた吹き抜けのユーティリティスペース（プラザ）をポスターセッション会場や学生交流ワークショップ会場として活用しました。そのため、会場内の参加者だけでなく周囲の通路からも会場の熱っぽい雰囲気を感じることができたようです。

また、たまたま同時期に札幌市内で開催された別の大規模国際会議の影響もあり、宿舍の確保が難しく、直前まで大会ホームページ等を通じて参加者への宿舍の空き状況の案内や、専用バスをチャーターして遠隔地のホテルから会場までピストン輸送を行う等の対策を講じましたが、宿舍の確保の円滑化は今後の課題として残りました。

今大会はご参加いただいた学会員の皆さま方はもとより、地元企業を中心に企業出展、協賛団体出展等、多くの地元企業・団体のご協力をいただきました。また山中会長はじめ学会理事、事務局の皆さまにも絶大なるご支援をいただき無事大会を終えることができました。実行委員会を代表して、厚く御礼申し上げます。



キャンパスエコツアー風景

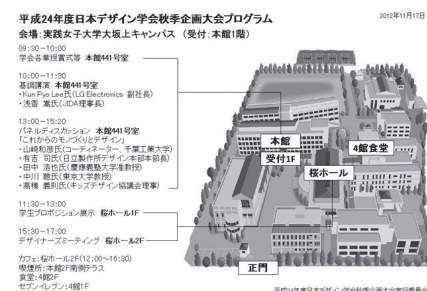


ポスターセッション風景

平成24年度 秋季企画大会実行委員会

実行委員長 塚原 肇

2012年11月17日（土）10:00～17:00に実践女子大学坂上キャンパス本館441号室および桜ホールにおいて、平成24年度日本デザイン学会秋季企画大会が、「これからのモノづくりとデザイン」をテーマに開催されました。

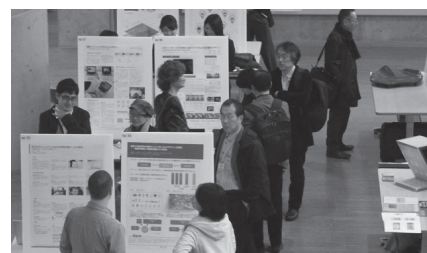


スケジュールおよびマップ

山中敏正会長（筑波大学）の開会挨拶の後、松岡由幸理事（慶応義塾大学）の進行により学会各賞授賞式が行われました。研究奨励賞 浅沼 尚氏、伊藤孝紀氏、功労賞 渥美 浩章氏、飯岡 正麻氏、上原 勝氏、渋谷 邦男 氏に賞が授与されました。

開会式続き、午前の部として2件の基調講演が行われました。前半はKun Pyo Lee氏（LG Electronics 副社長）による「LGのデザインと世界戦略」、後半は浅香嵩氏（日本インダストリアルデザイナーズ協会理事長）の「これからのモノづくりとデザイン」が講演されました。

昼休みには桜ホールにおいて60件の学生プロポジション展示が行われました。



学生プロポ

午後の部では、山崎和彦氏（千葉工業大学）の司会により、パネルディス

カッション「これからのモノづくりとデザイン」が行われました。パネリストの有吉司氏（日立製作所デザイン本部本部長）、田中浩也氏（慶応義塾大学准教授）、中川總氏（東京大学教授）、高橋義則氏（キッズデザイン協議会理事）の4氏から話題が提供され、それを受けて会場を含めた討論、意見交換が行われました。



デザイナーズミーティング

最後に、デザイナーズミーティングが桜ホール2階で行われ、講演者、参加者、学生の懇親を深めるとともに、学生プロポジションの優秀作品の表彰が行われました。大会にご参加いただいた156名の皆様とお手伝いを頂いた実践女子大学の学生さんに感謝いたします。

学会各賞選考委員会担当

担当理事 松岡 由幸

昨年度の学会各賞選考結果を、ご報告いたします。

<研究奨励賞>

・浅沼尚：「多空間デザインモデルに基づくデザイン方法の提案とその適用」
選考事由：研究内容の質の高さ、理論と実践の融合という観点から判断して今後の展開が大いに期待できる。

・伊藤孝紀：「環境デザインの体系化を目指した環境演出に関する研究」
選考事由：環境演出、インスタレーションに関する研究を精力的に進めており、環境デザイン領域の将来が期待できる。

<功労賞>

以下の5名の先生方が授賞されました。

- ・渥美浩章
- ・飯岡正麻
- ・上原 勝
- ・澁谷邦男
- ・日野永一

なお、昨年度の度学会各賞選考委員会の構成は、以下の通りです。

委員長：宮崎清

委員：青木弘行、庄子晃子、杉山和雄、須永剛司、原田昭、松岡由幸、宮内愨、森典彦

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

Design シンポジウムは、日本のデザイン・設計に関する学会の共催により、2年に一度開催されています。現在は、当学会に加え、日本建築学会、日本機械学会、日本設計工学会、精密工学会、人工知能学会の6学会が共同で運用しています。

平成24年度は、日本建築学会が幹事学会を務めるかたちで、10月16日、17日に京都大学にて実施されました。300名近い参加者が集い、基調講演、パネルディスカッション、一般講演などが実施されました。

パネルディスカッションでは、各共催学会からパネルが参加し、「21世紀社会のためのデザイン学の展望」についての議論が行われました。そこでは、京都大学の博士課程教育リーディングプログラム「京都大学デザインスクール」をはじめとした、国内外の大学におけるデザインスクールの動向が紹介されました。また、当学会からは、松岡がパネルとして参加し、近年における国内外のデザインやその研究動向についての紹介を行いました。

このような活動のなか、日本認知科学学会が運営会議に参画（現時点、共催ではない）するなど、デザイン領域に関心を示す他学会の新たな動向も見受けられたことから、本学会においてはさらなる研究を推進し、この領域を先導していく重要性を改めて感ずる年度でもありました。

IASDR担当

担当理事 古屋 繁

2012年は、IASDRの2013年大会を日本で開催するための本格的な準備として、ほぼ毎月組織運営委員会を行った。広報部会の多大なる協力の下に、5月には、英文Circularを、6月には日英のCircularを作成し、日本デザイン学会、DRS、KEERなど、主要関連学会において広報活動を開始することができた。Webの開設はやや遅れたが、10月に初期バージョンを公開し、研究発表部会（論文募集審査担当）の努力により、11月に論文募集を開始することができた。論文は、当初12月31日をabstractの締切としていたが、募集告知が遅れたこともあり、1ヶ月延長して、1月31日までとし、Full paperの締切は、当初の2月15日から3月15日とした。その結果、最終的なフルペーパーの数のとりまとめは次年度に持ち越したものの、以下の様に、過去のIASDRを上回る、最大規模の大会となる見通しである。

- ・Webを通じた登録件数 1418件
- ・アブストラクト登録数 1160件

このほか、会場部会、総務部会、企画部会の連携により、Keynote Speechの決定、主要プログラムの検討および決定などを行い、プログラムを精力的に、2013の準備を進めることができた。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学

担当理事 清水 泰博

日本学術会議第1部傘下の藝術学関連学会連合（日本デザイン学会を含む15学会により構成）による第8回公開シンポジウムは、大阪市の国立国際美術館講堂にて「藝術と記憶」をテーマに6月8日に盛会裏に行われたところ。様々な芸術分野における記憶をテーマとしたもので、日本デザイン学会からはパネラーとして大森正夫氏

(京都嵯峨芸術大学)が「作法としての空間意匠―月待ちの日本美―」の発表をされました。

尚、このシンポジウムテーマ企画段階においては、日本デザイン学会会員の後藤泰徳氏からの「芸術と科学～分化から統合の時代へ」という興味あるテーマ案を頂き、芸術学関連学会連合の会議へ提案しましたが残念ながら採択されず、今回のテーマとなったものです。ただこの後藤泰徳氏からのテーマは今後の折にも芸術学関連学会連合のテーマとなりうるものと思っております。

日本学術会議

第三部／理学・工学

担当理事 森田 昌嗣

日本デザイン学会は、日本学術会議に置かれた3つの部の内、第三部(理学・工学)に所属していますが、特筆すべき活動はおこなえませんでした。

横断型基幹科学技術研究団体連合

担当理事 松岡 由幸

元来、デザイン学は、横断型基幹科学技術の根幹をなす学術領域であり、当学会は、横幹連合における学術上での牽引的立場にあるべきと考えます。この視点に立脚し、これまで、横幹連合における当学会の存在感を高めるべく、以下のことを実施してきました。

まず、雑誌「横幹」の4月号において、特集「横断的活動としての『タイムアクシス・デザイン』」を掲載しました。前青木会長による「持続的発展に向けた価値の創造 ―時間軸をデザインする時代」、松岡による「タイムアクシス・デザインの概念」、小林昭世先生による「物語とゲームによる経験のタイムアクシス・デザイン」など計6報の解説記事により、タイムアクシス・デザインの概念、その意義や方法論について言及し、当学会における新たなパラ

ダイムへの取り組みを紹介しました。

なお、この特集が契機となり、科学技術振興機構(JST)の研究開発戦略センター(CRDS)において、国の各省庁横断型の施策提案に向けて実施された「システムイノベーションのための課題発掘調査」に松岡が参画いたしました。ここでは、タイムアクシス・デザインが可能とする「モビリティシステムの価値成長デザイン」および「開発過渡期におけるモビリティシステムのプランニング」の両テーマを、今後、国が推進すべき研究課題として提言いたしました。

11月1日に日本大学で催された第4回横幹連合シンポジウムにおいては、横幹連合に所属する各学会の学会長懇談会が実施されました。ここでは、山中会長が参加され、ポスターを用いた当学会の沿革やさまざまな活動の紹介、今年8月に実施されるIASDRの案内などを通じて、他学会の会長との情報交換や懇親を深めるなどが実施されました。

日本工学会

担当理事 國澤 好衛

工学系の学協会の連合組織である公益社団法人日本工学会は、加盟する学協会が抱える共通的な課題を議論する場として機能しています。本学会では、学協会の運営事務に関わる「事務研究委員会」および各学協会の取り扱う技術分野の継続教育の推進に関わる「CPD協議会」に参加しています。そのなかで、現在は、公益法人制度改革に伴う新公益法人への移行、学協会運営のための会計・税務、役員選挙等における電子投票制度の可能性、学協会の情報セキュリティへの取り組みや継続教育の制度化等を議論しています。その内容については、一部を理事会で報告していますが、今後も情報収集につとめ、本学会の運営改善につなげて行きたいと思っております。

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

平成24年度末の会員数は、正会員1,513名、学生会員数262名、賛助会員数29件、年間購読会員59件です。正会員と学生会員を合わせた会員数は1,775名で、昨年の同時期(1,782名)と比較して全体としては若干の減少、学生会員については増加となっていますが、学生会員で年度末の更新や卒業後の移行手続きを行わない会員が多く、学生会員制度の定着に伴って手続きの問題が大きくなっています。今後に向けて、毎年の更新などの手続きが円滑に行われるようにするための検討が必要です。

法人化問題については、具体的な推進に向け、本年度内に理事会内でワーキンググループを発足させました。このワーキンググループにより、次年度は具体的な検討や作業を予定しています。

懸案であった名簿出版に関しては、本年度中に他の学会の状況を調査した結果、調査した全ての学会で、昨今の個人情報保護に関する社会的意識の変化により名簿出版を中止していることが明らかとなったため、理事会で検討のうえ、本学会も当面、名簿出版を見合わせる事となりました。

第1支部

支部長 両角 清隆

2年に1度開催している支部大会について、6月の春季大会において幹事会を開催し検討した。2013年9月7日(土)に東北工業大学(仙台)で開催することを決定し、内容を詰めていくことにした。特に、これまでの支部大会では学生の積極的な参加により成果が上がっているため、学生の参加についてさらに強化を図ることが合意され、その後Web上の検討の場で検討を続けている。

第2支部

支部長 浅沼 尚

平本支部では、関東圏に勤務・在住しているデザイナーが多いことを生かし、まず、多くのデザイナーとデザイン分野の教育・研究者が直接対話を可能とする産学連携イベントを推進してまいりました。

平成24年8月1日(水)、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館を会場として、日本デザイン学会 第2支部の2012年度活動:「デザイン塾:知の統合としての“デザイン科学”とその応用」が開催されました。本活動は、デザイン塾による主催、デザイン理論・方法論研究部会(DTM)、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会から成る「デザイン科学連合(Design Science Association)」, 第2支部、および慶應グローバルCOEの共催により行われました。

はじめに、DTM主査の松岡由幸教授と慶應義塾大学の佐藤浩一郎特任助教より、細分化されたさまざまなデザイン領域に共通の基盤である「デザイン科学」と、それを広く社会へ発信するための「デザイン科学辞典」編纂に関する説明が行われました。同辞典は、掲載項目やさまざまなアスペクトに基づく検索キーワードを、随時追記・修正可能な成長型のシステムを特徴としており、その基本となるシステムのフレームワークが説明されました。また、Web上での無料配布の形式をとる同辞典の閲覧を実演するとともに、執筆済みのコンテンツ(30項目)の紹介が行われました。さらに、同辞典の編纂をはじめ、これまでデザイン塾の創設以来、先導されてこられた故氏家良樹先生の追悼の意を込めて、氏家良樹先生の功績の紹介も行われました。

つぎに、第2支部長浅沼より、デザイン科学の応用である「Mメソッド」とその事例適用に関する説明が行われました。また、DTMで議論が進められている「タイムアクシス・デザイン」に基づくサービスデザインをテーマと

した講演が古郡了氏(マツダ株式会社)、Jaime Alvarez 特任助教(慶應義塾大学)により行われました。

さいごに、Mメソッドやタイムアクシス・デザインに基づく研究事例や作品の紹介が学生より行われました。

本活動においては、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会主査:村上存先生(東京大学)、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会主査:綿貫啓一先生(埼玉大学)をはじめ、デザインに関わる研究・教育者の方々(埼玉大学、千葉大学、東海大学、東京大学、慶應義塾大学)、実務者の方々(東芝、東芝テック、兵庫県立工業技術センター、フジ印刷株式会社、マツダ、GKテック)、学生を含む約50名の方にお越しいただき、知の統合としてのデザイン科学の可能性について活発な議論が行われました。

第3支部

支部長 國本 桂史

第3支部では、会員交流と活動の活性化に加え、平成24年度は学生会員の拡大も目標として、下記の事業を実施した。

1. 第3支部研究発表会・懇親会

目的:第3支部会員がどのようなデザイン活動や研究を行っているのかを、発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通してより深い相互交流を図るとともに、学会発表の練習機会とすることを目的として今年度も実施した。

日時:平成24年3月17日(日)午前10:00～

内容:口頭発表、ポスター発表、懇親会

会場:愛知県立芸術大学 名古屋駅サテライトキャンパス(名古屋市中村区名駅)

参加:54名(会員19名、非会員4名、学生31名)

発表:31件(口頭17件、ポスター14件)

概要:今年は発表部屋を一カ所に集中

し、全員がすべての発表が参加できるように工夫した。発表時間が短縮したので、発表時に十分な討議ができない点は懇親会で補うよう設定し、ポスター発表については懇親会を兼ねてこれまでより長い時間を設定した。なお、発表内容は「日本デザイン学会第3支部研究発表概要集」を作成し掲載した。また、若手研究者を奨励するために、試みとして今年度より学生発表者から「優秀発表賞」4名を選出・表彰した。



第3支部研究発表会風景

2. 日本デザイン学会第3支部奨励賞事業

日本デザイン学会第3支部では、支部会員のデザイン活動や研究活動の発表の場として、研究発表会、懇親会を開催し、会員間の交流を促進して参りました。これまでの研究発表会においても、学生、大学院生によって将来性

を感じさせる優秀な作品や研究成果が発表され、学生間の刺激や交流が図られてきたと考えています。

これまでの成果、日本デザイン学会の学生会員制度スタートといった状況を踏まえ、支部幹事会において議論した結果、学生、大学院生のデザイン活動、研究活動の評価のための学生表彰制度と学生間交流の活発化を目的とした学生会を順次スタートさせることとしました。この内、学生表彰制度につきましては、各所属機関（大学、大学院、短期大学）において優秀な研究、制作活動を行った学生、大学院生を対象とした奨励賞と、第3支部研究発表会においての優秀な研究発表、ポスター発表を対象とした研究発表学生賞の2制度を設けることとし、今年度よりスタートさせました。

平成24年度受賞者 11名

第4支部

支部長 三橋 俊雄

1) 地域生活文化研究会の一環としての学外演習を、2012年8月30日?9月1日に、京都府宮津市由良地区において実施した。テーマは「由良地区活性化のデザイン提案、由良小児童たちとの自然観察・田舟遊び」とし、参加者は、京都府立大学（三橋+23名）、滋賀県立大学（面矢+6名）の計31名であった。演習では、班別に別れて地区散策と活性化の検討、地区活性化のデザイン提案発表会、由良小学生を対象とした植物標本づくりと田舟遊びなどを実施した。「自然共生教育」を基本姿勢として、地域連携による生活文化体験学習を行うことができた。

2) 日本デザイン学会第4支部研究発表会を、2013年2月2日（土）、京都工芸繊維大学にて開催し、以下の口頭発表と研究交流が行われた。当日の発表などのスケジュールは下記の通りで、口頭研究発表が14件であった。また、現代アーティストのスプツニ子氏による特別講演「クリティカル・デザインで想像する未来」が京都工芸繊維大学60周年記念館にて開催され、

その後、交流会が行われた。

■実行委員長：三橋俊雄（京都府立大学）

■開催期間：2013年2月2日（土）
10:00～17:50（9:30より受付）

■会場：京都工芸繊維大学 〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町

■プログラム

●研究発表：一般講演セッション
会員・学生・一般による口頭発表

・時間：10:00～16:00

・会場：京都工芸繊維大学 講義室（1号館2階2号室）0122

9:30～ 受付開始

10:00～10:10 開会の辞

10:10～10:55 口頭研究発表1（発表番号01～03）

10:55～11:05 休憩

11:05～11:50 口頭研究発表2（発表番号04～06）

11:50～12:40 昼食

12:50～13:30 美術工芸資料館見学（12:50資料館前集合）

13:30～14:30 口頭研究発表3（発表番号07～10）

14:30～14:40 休憩

14:40～15:40 口頭研究発表4（発表番号11～14）

●特別講演：「クリティカル・デザインで想像する未来」 現代アーティスト スプツニ子!氏

・時間：16:10～17:40

・会場：京都工芸繊維大学60周年記念館1階

17:40～17:50 閉会の辞

●交流会

・時間：18:00～19:00

・会場：京都工芸繊維大学60周年記念館2階

・参加費：社会人（一般）1,000円・学生500円（学会参加料をお支払いの方は無料）

[研究発表題目]

01：中国上海伝統的「里弄住宅」における生活文化「里弄住宅」の近代化変容 モデルの比較を通して 陳 希 京都府立大学大学院

02：京都府北部における自立自存的な生き方の探求

佐々井 俊文 京都府立大学大学院

03：中国・浙江省における「漁家楽」の実態に関する考察 ― 舟山市・? 泗県を事例として―

薛 云逸 京都府立大学大学院

04：環境経営への取り組みに関する研究 ― テキストマイニングによる環境報告書の分析―

山内 康輔 京都工芸繊維大学

05：視覚障がい者の携帯情報端末の利用促進を目指して ― バイブレーションへの情報の付加の可能性―

川村 聡史 京都工芸繊維大学

06：非常持ち出し品に関する研究 ― 東日本大震災 被災者へのヒアリング調査を通して ―

益田 雄司 京都工芸繊維大学

07：Girls' Kitchen Renovation- GirlsのためのDIY ライフスタイル新提案 - 玉井 恵里子 京都工芸繊維大学大学院

08：UX デザインにおけるガイドラインの一提案

木原 理絵 和歌山大学大学院

09：岡山県立大学情報デザインコースにおける産学連携教育 2012年度の取り組み

益岡 了 岡山県立大学

10：ユーザの意識調査に基づく放射線測定器のインタフェースデザイン

東野 誠 岡山県立大学

11：The Passage of Lotus from Egyptian to Thai

WANVIRATIKUL Suppata 京都工芸繊維大学

12：Aspect of Primitive Siam: A Study of Visual Graphic on Early Thai Matchbox Labels influenced by Japanese design

KUANDACHAKUPT Chitchai 京都工芸繊維大学

13：伝統の虫プロジェクト

岡 達也 京都工芸繊維大学大学院

14：京都高等工芸学校におけるヨーロッパデザインの受容―ドイツに焦点をあてて―

和田 積希 京都工芸繊維大学

第5支部

支部長 伊原 久裕

第5支部では、九州・沖縄地区の所属会員の交流、ならびにデザイン研究・教育の成果の地域への発信を目的として、学生作品展と研究発表会・懇親会の2つの事業を毎年実施しています。平成24年度に実施したこの2つの事業について報告致します。

1. 九州デザイン大学展 2012 卒業・修了優秀作品展

平成24年6月12日(火)から17日(日)までの6日間、福岡市天神地区の商業施設 BiVi 福岡を会場として「九州デザイン大学展 2012 卒業・修了優秀作品展」を開催しました。平成24年度は6大学(西日本工業大学、近畿大学、九州産業大学、崇城大学、九州大学、九州造形短期大学)に、大分県立芸術文化短期大学が新たに参加したことから、7大学合同による展覧会となりました。出品作品総数は55点で、その内訳は、西日本工業デザイン大学デザイン学部(10点)、近畿大学産業理工学部(4点)、同大学大学院産業技術研究科(1点)、九州産業大学芸術学部デザイン学科(9点)、九州造形短期大学芸術造形学科(12点)、大分県立文化芸術短期大学(7点)、九州大学芸術工学部(8点)、崇城大学大学院芸術研究科(4点)でした。最終日の6月17日には、イベントとして学生自身による作品プレゼンテーションと優秀作品の選定・表彰式が実施され、優秀作品として田中栄吏さん(近畿大学)「からだのつづき」、河野雅之さん他4名(九州産業大学)の「希望のあかりプロジェクト」、宮原莉沙さん(大分県立文化芸術短期大学)の「こよみろうそく」が選ばれました。会期全体で約550名の入場者があったことから、九州地区における行事としてほぼ定着したと考えています。



九州デザイン大学展、
学生プレゼンテーション風景

2. 研究発表会・懇親会

平成24年度の「研究発表会・懇親会」は、10月27日(土)に九州大学大橋キャンパス(芸術工学部)で開催されました。発表件数は、口頭発表29件・ポスター発表2件の合計31件、学生作品発表4件でした。3会場同時進行の9つのセッションがあり活発な議論が交わされました。参加人数は72名と23年度とほぼ同数であり全体として盛況でした。また、研究発表会終了後に食堂で懇親会を開催し、40名程度の参加者を得て盛況の内に終了しました。



研究発表会、
ポスターセッション風景

教育部会

主査 金子 武志

2012年度(平成24年度)テーマ:「基礎デザインについて考える」

このテーマは教育部会で常々登場するものであるが、世代やそれぞれの立場によって「基礎デザイン」についての概念、捉え方は異なるように思う。

変化の早い情報化社会を日々送っている我々として、あえて原点に立ち戻る意味を込め、1年間を通じてあえてこのテーマに向き合ってみた。

教育部会は毎回学会員以外の参加も

あり、教育関係者、クリエイター、企業関係者からそれぞれ異なった視点の意識交換がなされ、結論を急ぐというよりは、時流を感じながら新たな問題意識を共有出来たように思う。

第1回6月29日(金)18:00~20:00

会場:日本デザイン専門学校 参加者人数:17名

講師:森香織氏(日本大学芸術学部デザイン学科)

テーマ:「教育の現場からデザインの基礎と基礎デザイン?大学教育における基礎という考え方を再考する」

第2回10月12日(金)18:00~20:00

会場:都立工芸高校 参加者人数:30名

講師:大泉義一氏(横浜国立大学教育人間科学部)

テーマ:「子どものデザインから」

第3回1月25日(金)18:00~20:00

会場:女子美術大学杉並キャンパス 参加者人数:13名

「座談会:デザイン教育を考える 基礎デザインを考える」

2013年度学会誌特集号に掲載予定(編集:黄ロビン氏)

[座談会トピックス(提供者:黄ロビン氏(名古屋学芸大学・メディア造形学部・デザイン学科))]

*産業技術としてのデザイン vs 文化技術としてのデザイン

*教養教育の基礎デザイン vs 専門教育の基礎デザイン

*「基礎デザイン」という概念について、そして教育の達成目標

*基礎デザインを国民の義務教育とする必要性

*デザイン教育カリキュラムにおける基礎デザインの習得とは

家具・木工研究部会

主査 阿部 真理

平成24年度の家具・木工研究部会の主な活動は以下の4件である。

1. 研究部会総会の開催：総会は、第59回日本デザイン学会春季研究発表大会の開催にあわせて実施した。しかし、各部会員の諸々の都合により出席者が少なく、実質的な議論にはつながらなかった。
2. 家具・木工研究部会主催テーマセッション「伝統的資源と現在学」の実施：第59回日本デザイン学会春季研究発表大会（札幌市立大）において、テーマセッション「伝統的資源と現在学」を実施した。これは2006年度より継続している研究部会活動である。
3. 研究部会誌「家具・木工通信」の発行：毎年発行している研究部会誌「家具・木工通信」の第58号を平成24年3月に発行した。
4. 家具・木工関連情報の配信：家具・木工に関連したセミナーおよび研究会、展示会等の案内を会員へ向けて配信した。

平成25年度の活動として「家具・木工通信」の発行および家具・木工関連情報の配信を予定している。

プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

平成24年度においては、下記のように活発な活動を実施しました。1) 平成24年度春季研究発表大会（札幌市立大学）にて、プロダクトデザイン研究部会の発足記念として「これからの日本のモノづくりとデザイン」というタイトルでオーガナイズドセッションを企画・運営した。当日は50名程度の参加者があり、活発な意見交換が行われた。2) 平成24年度春季研究発表大会（札幌市立大学）にて、PD研究部会を開催してPD部会の活動計画などについて議論された。3) 平成24年度秋季研究発表大会（実践女子大学）は、PD研究部会が主体的に企画・運営した。大会テーマを「これからのモノづくりとデザイン」として、活発な意見交換が行われた。4) 1月27日に第1回プロダクト・サービスデザイン研究会を拓殖大学にて開催した。「これからのサービスとプロダクトの

デザイン」をテーマとして、講演者2名、口頭発表9件、パネル発表5件で、70名近い参加者により活発なディスカッションになりました。5) 日本インダストリアルデザイナー協会との協力推進として、3月26日にプロダクトデザイン教育研究会を共催した。また、プロダクトデザインの本の編集協力などについても検討がはじまった。

平成25年度においては、下記の活動を計画しています。1) 平成25年度春季研究発表大会（筑波大学）にてPD研究会委員会開催、2) 平成25年度秋季研究発表大会（多摩美術大学）にてPD研究会委員会開催、3) プロダクト・サービスデザイン研究会の開催、4) デザイン学研究特集号への編集協力、5) プロダクトデザインの本の編集協力、6) 日本インダストリアルデザイナー協会との協力推進

環境デザイン研究部会

主査 清水 泰博

環境デザイン部会は、前年度末に部会員執筆による「つなぐ～環境デザインがわかる」を朝倉書店より出版したことを受け（これはほぼ2年間の部会活動の成果である）、また前年度秋の部会による東北大震災被災地視察の報告を含め、第59回日本デザイン学会春季大会（札幌市立大）において「つなぐ」の書籍内容に東北大震災に対する部会員の意見を絡めた発表及び聴衆との質疑応答を行った。

24年度部会活動テーマを「安心安全～震災後の環境デザイン」とし、震災に関わる研究活動を更に継続して活動した。その一貫として秋より「南三陸町防災庁舎」の保存を求める運動を開始、12月末には環境デザイン部会有志24名による「南三陸町の防災対策庁舎の保存に関する提言書」を南三陸町に提出した。その後2月には再度、南三陸町を集中的に視察し、行政の方、住民の方、復興活動に尽力されている方との意見交換を行った。その内容をふまえて、平成25年度の第60回春季大会においては「残すべきもの」と

いうテーマのもとオーガナイズドセッションを行う。

また、環境デザイン部会報「ED place」は例年通り3回発行（64～66号）した。

平成25年度の年間テーマは24年度テーマ「震災後の環境デザイン」を継承しつつ、「残すべきものとは」をサブテーマとして活動する。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

平成24年度デザイン史部会では以下の研究会を開催しました。

1. 第28回研究会
開催日：平成24年12月15日
テーマ：「英国建築インテリア様式とその日本への影響」
発表者：田島恭子氏（KYOプランニングオフィス(株)）
場 所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店
参加者：12名

田島先生は一級建築士、インテリア・プランナー。日本女子大学住居学科卒業、エジンバラ大学環境学部建築学科保存専攻修士課程修了。配布されたA3用紙12枚のレジメはそのまま英国インテリア・デザイン史の資料となります。

2. 第29回研究会
開催日：平成25年3月23日
テーマ：「クリストファー・ドレッサーの見た日本の工芸品」
発表者：日野永一氏（日本デザイン学会名誉会員）
場 所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店
参加者：13名

日野先生が長年にわたり蒐集された史・資料の一部をご持参して話が進行。配布されたレジメ4枚は資料価値の高いものとなりました。

デザイン理論・方法論部会

主査 松岡 由幸

本部会は、デザイン方法論部会を拡張するかたちで、平成20年(2008年)4月に設立されました。その後、春季大会では毎年、4、5件の企画セッションによる発表を継続するとともに、平成23年度までに、12回のシンポジウムや研究会を実施し、延べ170名以上の国内外のデザイナーや研究者が集い、デザイン理論・方法論の構築に努めてきました。

平成24年度においては、まず、札幌市立大学で行われた春季大会にて、4件の企画セッション、合計20件の研究発表を行いました。また、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、および日本設計工学会設計理論・方法論に関する研究調査分科会との連携の下、『デザイン科学辞典』の編纂を進めてきました。この辞典は、web システムによるもので、タイムアクシス上での成長型辞典であるとともに、新たな枠組みが生まれた際には、それに沿った用語解説の配置(目次)を追加可能とするなど、幾つかの新たな特徴を導入しております。

8月1日には、慶應義塾大学協生館において、デザイン塾「知の統合としての“デザイン科学”とその応用」を主催し、『デザイン科学辞典』のお披露目を行いました。なお、この会では、これまで幹事としてご尽力頂きました氏家良樹先生の追悼の意を込めたかたちで執り行われ、さまざまな領域から多くの方々にご参列いただきました。

デザイン理論・方法論部会は、これまで多くのデザイナーや研究者が集い、デザイン科学の基盤構築に努めており、『デザイン科学辞典』の編纂に向けた活動を推進してきました。平成25年度においては、その成果をまとめ、公表する年度と位置づけています。

まず、筑波大学で行われる春季大会においては、企画セッションによる多くの研究発表を行うとともに、オーガナイズドセッション「デザイン、デザイン学、そしてデザイン科学」を実施

予定です。これにより、デザイン実務、デザイン学、およびデザイン科学の関係性を明示するとともに、デザイン科学が今後どうあるべきかについての議論を行う。さらには、『デザイン科学辞典』の案を提示し、それについての意見交換を行うことで、辞典のブラッシュアップを図る予定です。

8月1日には、慶應義塾大学において、デザイン塾「知の統合としてのデザイン科学と、それを応用するタイムアクシスデザイン」を主催し、ブラッシュアップした『デザイン科学辞典』のお披露目、およびタイムアクシスデザインの理論と応用例の紹介を行います。なお、この会での議論は、8月28日に行われる、IASDRでの学術会議連携プログラムの内容に繋げていく予定です。

情報デザイン研究部会

主査 山崎 真湖人

平成24(2012)年度第59回日本デザイン学会春期研究発表大会(札幌市立大)にて「地域社会と情報デザイン」と「デザインとワークショップ」の2つのテーマセッションを実施しました。各10件、8件の発表が行われました。

また、2013年3月30日には「世界の中での大学の学びとデザインの関わりかた」と題した研究会をアドビシステムズ株式会社に会場を借りて開催しました。研究会では、東京大学大学院情報学環、准教授の山内祐平先生より「MOOC 一国境を超えるオンライン学習」、また東北工業大学 ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科、教授・学科長の両角清隆先生より「人々と・人々の現実を変えてゆく人材を育てる」の2件のご講演をいただいた後、21名の参加者全体でディスカッションを行いました。国際的規模で展開されるオンライン教育、プロジェクト学習など、大学教育における新しい潮流に関して、情報デザインの経験や考え方をどのように活かすことができるかを考える場となりました。

ファッションデザイン部会

主査 常見 美紀子

(1) 平成24(2012)年9月発行のデザイン学研究特集号「日本のファッションデザイン：世界の視座、日本の視座」76号(第19巻4号)を発行した。原稿は国内7名、海外3名の論文を掲載した。

(2) 大妻女子大学にて平成24年度研究例会を開催した(2012年12月15日)。発表者は中川麻子氏で、テーマは「芸術刺繍—成立と構造」であった。この発表は博士論文を基盤としたもので、明治時代的美術染織の成立と構造を明らかにする意欲的な研究であった。その後、特集号の合評会も行った。(3) 平成25(2013)年4月から高等学校ファッションデザインコースなどで使用される文部科学省著作教科書『ファッションデザイン』の校正を行った。部会員が編集協力者、審査協力者を務めた。

創造性研究部会

主査 永井 由佳里

例年のとおり活発な研究活動をおして、春季研究発表大会のテーマセッションのみならず International Conference on Design Creativity 2012 (Glasgow) 等の関連する国際会議や国内研究会、部会員の論文や著作を通じ、重なりと拡がりのある議論を展開することができた。平成24年度はデザインにおける創造性の中心課題である「デザイン思考」の研究と実践に力を注ぎ、研究成果の一部をデザイン学特集号の編集発行を通じ広く学会員に公開した。また、研究部会が寄与した「デザイン学」が科研費の分科・細目としてスタートしたことで、さらなる研究の推進と発展が見込まれる。

平成25年度の活動として、春季大会でのテーマセッションでは「つくる」と「わかる」という二つの方向性を融合しデザインにおける創造性の考究を計画している。また、研究会等での長

期的な研究課題への取組みを継続する。さらに、関連する国際会議 ACM SIGCHI Creativity & Cognition 2013 (シドニー)、ICED2013 (ソウル) など国際的研究動向と連動し、より豊かな研究交流の場を提供していく。

サービスイノベーション デザイン研究部会

主査 古屋 繁

研究部会設立をきっかけにはじまった International Service Innovation Design Conference も、会員のみなさんの協力を得て、釜山、函館につづき、2012 年は、台湾台南市にある国立成功大学で 3rd ISIDC を開催することができました。日本デザイン学会会員からも、キーノートスピーカーをお願いし、日本のサービスデザインの現状を紹介していただきました。

また、一昨年につづき、春季研究発表大会では、サービスイノベーションデザインの研究発表セッションをもち、活発な議論を行うことができました。本年開催される IASDR 2013 のサービスデザインの Invited Session やパネルセッションの準備をサポートしています。

本年平成 25 年度は、昨年末設立されたサービス学会との連携を視野に入れた活動や、来年マレーシアで開催予定の 4th ISIDC の運営を含めた協力を行うとともに、研究部会としても種々のサービスデザインに関する勉強会を開催していきたいと考えています。

平成 24 年度（平成 24 年 4 月 1 日－平成 25 年 3 月 31 日）決算報告

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
平成23年度繰越金	9,800,356	9,800,356	0	9,800,356
1 会費(現)	16,859,700	17,186,000	326,300	@13,000 1289人 @6,500 66人 16,757,000 429,000
2 会費(新)	1,810,000	2,213,000	403,000	@18,000×80名(正会員 入会金:5,000, 年会費:13,000) @6,500×120名(学生会員 入会金:免除, 年会費:6,500) 1,434,500 778,500
3 賛助会員費(現)	837,000	759,685	-77,315	24件 759,685
4 賛助会員費(新)	30,000	0	-30,000	0
5 年間購読会員費(現)	1,450,000	1,278,500	-171,500	@25,000×52件 1,278,500
6 年間購読会員費(新)	100,000	25,000	-75,000	@25,000×1件 25,000
7 広告費	200,000	340,000	140,000	6件 340,000
8 学会誌掲載別刷料・負担金	4,320,000	3,036,000	-1,284,000	論文集別刷料・カラー印刷負担金 作品集別刷料・カラー印刷負担金 平成23年度作品集別刷料・カラー印刷負担金 1,576,000 400,000 1,060,000
9 名簿売上金	1,225,000	0	-1,225,000	0
10 概要売上金	1,750,000	1,753,500	3,500	@3,500×589冊 1,753,500
11 預かり金(税金)	0	30,325	30,325	30,325
12 雑収入	800,000	982,068	182,068	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 946,568 その他 0
計	39,182,056	37,404,434	-1,777,622	37,404,434

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
本部事務局 & 理事会関係	9,397,000	7,670,804	-1,726,196	
1 本部事務局経費	7,617,000	6,767,684	-849,316	消耗品代 124,183 運営経費(春季大会出張費用含む) 98,420 パート雇用費(@150,000×12,@150,000×2) 2,100,000 通動費(@6,000×12) 72,000 施設設備費 0 通信費及び電話代金 771,818 印刷代 251,045 雑費 109,091 会費引き落とし経費 117,432 賃料費(@150,000×12ヶ月) 1,800,000 光熱費 128,820 アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿作成補助等) 1,041,000 税金準備金, 労災保険料 153,875
2 理事会運営費	250,000	242,120	-7,880	会場借用料, 理事会運営経費等 242,120
3 役員活動費	600,000	661,000	61,000	役員の諸活動に対する補助 661,000
4 名簿出版費	930,000	0	-930,000	通信費 0 編集・チェック(アルバイト雇用費) 0 印刷費(@1,300×500冊) 0 送料 0
5 選挙経費	0	0	0	選挙に関する費用 0
審査・編集関係	1,470,000	1,242,080	-227,920	
6 論文審査委員会経費	480,000	480,000	0	480,000
7 作品審査委員会経費	250,000	248,990	-1,010	前年度残金 -1,010 作品集編集費 250,000
8 学会誌編集・出版委員会経費	90,000	5,000	-85,000	5,000
9 特集号編集委員会経費	650,000	508,090	-141,910	第19巻3号編集委員会 118,090 第19巻4号編集委員会 130,000 第20巻2号編集委員会 130,000 第20巻3号編集委員会 130,000 第20巻4号編集委員会 0
学会誌印刷・通信関係	23,170,000	14,254,688	-8,915,312	
10 印刷費	21,070,000	12,190,458	-8,879,542	平成23年度論文集(1冊) 1,094,310 平成23年度特集号(2冊) 2,257,500 平成23年度作品集(1冊) 2,217,768 論文集(5冊) 5,432,280 特集号(0冊) 0 作品集(0冊) 0 概要集(900冊印刷) 774,900 封筒代 413,700
11 出版物通信費	2,100,000	2,064,230	-35,770	郵送料・事務代行料金(前年度分を含む @350,000×8) 2,064,230
大会関係	2,267,500	1,273,786	-993,714	
12 大会補助費	750,000	750,000	0	平成24年度秋季大会補助 250,000 平成25年度春季大会補助 500,000
13 春季大会概要集編集委員会経費	557,500	344,010	-213,490	平成24年度大会 186,510 編集費・書類作成費(平成25年度分) 0 アルバイト雇用費(平成25年度分) 0 通信費(平成25年度分) 0 演題登録システム(PASREG)利用料 157,500
14 春季オーガナイズドセッション費用	400,000	0	-400,000	0
15 学会セミナー費用	100,000	0	-100,000	0
16 総会準備経費	20,000	16,800	-3,200	総会経費、委任状・資料印刷代 16,800
17 学会各賞選考委員会経費	140,000	109,706	-30,294	書類作成費(学会各賞推薦状・資料等) 22,680 通信費 0 賞状・記念品代 87,026 会議費 0
18 国際デザイン会議	300,000	53,270	-246,730	国際デザイン会議会費(500\$) 53,270 国際デザイン会議活動費(運営会議活動費) 0
委員会関係	1,650,000	572,234	-1,077,766	
19 委員会経費	300,000	30,360	-269,640	共通費 30,360
20 研究部会共通経費	500,000	259,582	-240,418	共通費(7研究部会) 259,582
21 支部活動補助費	800,000	282,292	-517,708	3支部 282,292
22 市販図書企画・編集経費(デザインの歩み)	50,000	0	-50,000	編集費 0

広報関係		450,000	0	-450,000		
23	広報費	450,000	0	-450,000	大会ポスター、ちらし作成費・通信費	0
					ホームページリニューアル	0
					その他	0
その他		777,556	12,390,842	11,613,286		
24	学協会関連	390,000	313,400	-76,600	学術会議活動費	48,100
					芸術関連シンポジウム分担金	15,000
					日本工学会活動費	0
					日本工学会会費	30,300
					CPD協議会会費	50,000
					JABEE年会費	100,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	0
25	予備費	387,556	75,750	-311,806		75,750
26	次年度繰越金	0	12,001,692	12,001,692		12,001,692
計		39,182,056	37,404,434	-1,777,622		37,404,434

[特別会計]

	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	15,261,412	11,279,349	-3,982,063	利息(¥17,937-)：基金に繰り入れ IASDRへ¥4,000,000貸し出し

平成24年度収支決算につき、上記のとおりご報告いたします。

平成24年4月25日 日本デザイン学会

本部事務局長 佐藤 弘樹

本部事務局副局長 小野 信子

本部事務局員 松原 孝

監査 青木 弘行

監査 野口 尚孝

平成25年度活動計画

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

日頃はデザイン学研究へご寄稿いただき、心より御礼申し上げます。昨年度のことになるのですが、今年の1月から稼働を開始し、4月からは完全に旧論文投稿・審査方式からそのシステムを受け継いだJ-STAGEを利用した電子投稿・論文審査システムが立ち上がりました。すでにこの新システムからご投稿いただいた論文も30件となっています。この新システムでは、従来の旧方式では投稿時にいただいておりました審査通信費を、論文審査の後に掲載可とさせていただきました論文についてのみ掲載基本料としていただくことに変更いたしました。この変更は、できるだけ多くの会員の皆様にご負担なく自由にご寄稿いただけるように環境整備を行うことを目的としたものです。投稿初期の負荷軽減と同時に、論文受付、査読依頼、投稿者・査読員とのやり取りもこの新システムにより一元的に行えるようになってきましたので、旧方式での諸問題の多くは解決される方向にあると確信しております。ぜひともデザインに関わる研究成果をご寄稿いただき、その成果をできるだけ速やかに「デザイン学研究」という媒体を通じて、会員の皆様へ、そして国内外においてデザインに関わりをもっていられる方々にお伝えしていくことができればと考えております。

今年度も昨年度同様に、論文審査委員会の構成メンバーとして、委員長1名の他、委員3名、幹事5名をお願いし、計9名で論文審査委員会の運営を実施させていただきとしました。さらに、投稿論文の審査区分（「論文」、「論説」、「報告」）の見直しとそれぞれの審査体制の整備に加えて、「デザイン学研究」英文ジャーナルの設置検討を行っていきたくと考えております。また、今年度も投稿論文の査読をお願い

させていただき学会員各位のさらなる増強を図りたいとも思っております。査読をお願いさせていただき会員各位には今年度も引き続きご迷惑をお掛けすることになってしまいますが、どうかご協力、ご指導をお願いさせていただければと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

作品審査委員会

委員長 清水 泰博

本年度の作品審査委員会の活動においては、今まで同様、厳密な作品審査を行うことが基本となりますが、作品審査のより迅速化のためにも、今年度より応募作品の投稿・提出は、全てのステップでメール添付、もしくはインターネット大容量ファイル転送サービスによることを原則としたいと考えております。このことにより審査期間をしっかりとることが出来、また作品集の全行程において迅速な対応が可能になるのではと思われるからです。またDVD作成のための期間確保から出版の遅れが常態化している部分もあり、この部分の可能な限りの是正も編集出版委員会と共に考えていきたいところで

す。今年度もオンライン・ジャーナル化を見据えた要項等の更なる改正などを引き続き行っていくことになります。今年度の作品集募集に際しましても、改めて「投稿規定」「執筆要領」「応募・投稿から掲載までの手順」の見直しを行い、よりJ-STAGEでの公開を可能にするよう5月に改訂を行いました。それを踏まえ、本年度は昨年度の教訓を生かして、編集出版委員会との緊密で効率的な共同作業によって、オンライン・ジャーナル化を目指していきたくと思っております。

学会誌編集・出版委員会

委員長 岡崎 章

平成25年度は、特集号の計画的な刊行と、前年度報告で述べたとおり、

平成26年度からの学会誌（作品集および特集号）の電子化を目標として、出版形態の再考および投稿規定の策定に取り組んでいきます。

編集委員の構成は、前年度に引き続き、黄ロビン、永井由佳里、寺内文雄、工藤芳彰です。

研究推進委員会

委員長 須永 剛司

研究推進委員会では、①研究部会の活性化、②研究部会活動に関わる学会規定の見直しから改訂案づくりの継続、③今回の春季60回大会の学生交流ワークショップの実施運営、④同大会のテーマセッションの運営、⑤記念イベントとして企画立案した「特別フォーラム」を実施運営します。加えて⑥今年度秋季大会学生プロポジション企画運営、⑦来年度春季大会テーマセッション募集を行います。

①研究部会の活性化：今年度より各研究部会活動報告を大会総会資料に掲載することとし、その報告執筆を研究部会主催に依頼した。15部会のうち、9部会から回答があり、それらを資料原稿としてまとめた。

②研究部会活動に関わる学会規定の見直しから改訂案づくりの継続：研究部会統括運営細則の改定案作成している。

③今回の春季大会の学生交流ワークショップの実施運営：「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのだろうか？ Design thinking and acting：What and how do design students learn?」へは約40作品の応募があった。6～7作品で1グループをつくり、全体6グループで、学生たちの日頃の学びの成果展示発表をもとに、デザインの結果とプロセスについて議論します。議論に参加するメンバーは、デザイン学生、教員や研究者、プロのデザイナーで構成。各グループがあらためてデザインすることの意味や価値を考え、最後に会場全体に発表します。

④春季大会のテーマセッションの運

営：各テーマセッションの企画者に座長の選任やグッドプレゼンテーション賞の推薦などセッションの当日運営を依頼します。

⑤記念イベントとして企画立案した「特別フォーラム」を実施運営：特別フォーラムは「実践するデザイナーたちのデザイン知とはなにか？ Exploring the wisdom of design in professional practices」を主題に、デザインの現場で仕事をしている実践家を中心に次の2つのプログラムで構成。自らの実践を省察することをおして「実践するデザイナーたちのデザイン知」を描き出すワークショップ、そしてワークショップで見いだされた思考や行為の特性をデザインの実践知として提示し議論するフォーラムです。「デザイン知ワークショップは、6月16日（日）に日本デザイン振興会、デザインハブで、約40名の参加者と実施。「特別フォーラム」は本日、6月21日（金）15時50分～17時45分に筑波大学、大学会館で実施します。ご参加ください。

⑥今年度秋季大会学生プロポジション企画運営：多摩美術大学が開催校となり10月19日（土）に実施する秋季大会での学生プロポジション作品を8月から広く募集します。

⑦来年度春季大会テーマセッション募集：今年末に募集を始めます。ふるって応募ください。

企画委員会 総合企画

委員長 松岡 由幸

創立60周年ならびに科研費における「デザイン学」の新設に伴い、今年度の企画委員会総合企画は、デザイン学における基盤研究の推進を図る所存です。

まず、6月21日から23日にかけて、筑波大学で実施される春季大会では、第60回大会でもあることを受け、「デザイン学とデザイン」を大会テーマとします。また、そのオーガナイズドセッションにおいては、「デザイン、デザイン学、そしてデザイン科学」、「視覚的

な使いやすさと直感的なインターフェイスデザイン」、「演習課題から探るデザイン学」、「震災後の環境デザイン—残すべきものとは」の4件が実施されます。

なお、オーガナイズドセッション「デザイン、デザイン学、そしてデザイン科学」に関しては、8月26日から30日にかけて実施されるIASDRにおける学術会議との連携プログラム「知の統合としてのデザイン科学と、新パラダイム”タイムアクシスデザイン”」との連携のもと、成長型webシステムによる「デザイン科学辞典」を紹介します。

さらに、10月19日（土）に多摩美術大学にて実施される秋季企画大会が行われる予定です。

このほかにも、講習会やセミナーの実施を検討しており、これらの諸活動を通じて、デザイン学の発展と地位の向上を目指します。

企画委員会 支部企画

委員長 両角 清隆

支部としての研究発表大会のほか、学生の参加しやすい形でのイベントが数多く計画されています。各支部の貴重なノウハウを共有しながら、さらなる発展につながるようにしていきたいと考えます。

第1支部：第1支部大会開催 日程：9月6日-7日 会場：東北工業大 長町キャンパス 内容：研究発表、学生ワークショップ

第2支部：①デザイン理論・方法論研究部会共催 デザイン塾の開催：8月1日 会場：慶應義塾大学 内容：「知の統合としてのデザイン科学と、それを応用するタイムアクシス・デザイン」。②デザイン科学の応用事例について講演会ならびに意見交換会の実施。

第3支部：①7月中旬、サイエンスデザインカフェをCafe Globe（名古屋市千種区春岡通7-6）にて実施する。②2013年度の第3支部研究発表会及び懇親会を実施し、学生間のより深い

相互交流を行う。

第4支部：①地域生活文化研究会は、2013年8月に、京都府立大学、滋賀県立大学共同で開催予定。②第4支部研究発表会は、2014年2/3月に、和歌山県立大学にて開催予定。

第5支部：①「九州デザイン大学展」を「九州・沖縄地区学生デザイン展？デザイン教育の現場から？」と名称変更し、2013年6月10日・16日にJR博多シティ2階のホールで開催予定。②研究発表会・懇親会を、崇城大学（熊本市）で同年10月5日に開催する予定

教育・資格委員会

委員長 山内 勉

本委員会の主要課題である「教育」と「資格」について、具体的な施策を計画・実行することが今年度の目標です。

「継続教育」については、デザイン学会の特徴を活かしたプログラムです。これに関連した検討事項「デザイン実務者の成果発表媒体」については、関連団体との連携での実現可能性を探ります。

「資格制度」については、JIDAがプロダクトデザイン（PD）検定1級、2級制度の上位に位置付けるプロダクトデザイン・プロフェッショナル認定制度を検討する過程に、上記継続教育（CPD）のしくみづくりとあわせて、継続して参画していきます。

また引き続き、技術者教育認定機構（JABEE）の業務に参画し、専門職大学院における認証評価の動向を

把握し、デザイン分野との資格の関連性を参考にします。

広報委員会

委員長 山崎 和彦

本年度は会員に向けての活動の充実と、社会に向けての活動を充実させたい。具体的な活動については委員で検討中ですが、会員に向けての活動の充

実では、1) 現在の Web サイトの効果的な運営、2) 今後の Web サイトの検討、3) 定期的なニュース配信の検討などの活動を検討中である。社会に向けての活動では、1) Web サイトへ学会案内などの社会に向けての情報の充実、2) 学会案内カタログの作成検討、3) SNS の活用、4) 協賛学会依頼の検討などの活動が考えられる。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

今後は、学生会員から正会員へのスムーズな移行など、学界全体としての会員数の減少を防ぐ手立てを積極的に打ち出し、それとともに学会の法人化を視野に入れ、収支バランスの良い財務を維持していく必要があると思われる。

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に以下の二つの問題に絞って活動します。

(1) 学生会員から正会員への移行、不明学正会員を減少させるための方策の検討。(2) 学会の法人化を視野に入れた財務計画の立案。

(1) に関しては、学会全体としての会員数の増加につながる手立てについて、他の委員会と連携しながら積極的に打ち出して行きます。

(2) に関しては、学会誌編集出版委員会、本部事務局と連携しながら、電子化に伴う収支のバランスのシミュレーションを行い、財務計画立案への基盤整備を行います。

市販図書企画・編集委員会

委員長 井上 勝雄

平成 25 年度の活動として、次を予定しています。

デザイン学の基盤構築に向け、昨年度の理事会にて承認された書籍『デザイン科学辞典』の編集を進め、そして、次年度の発刊を目指しています。

また、6 月に筑波大学で開催予定の春季大会のオーガナイズドセッション

で、『デザイン科学辞典』を紹介しその議論を予定しています。さらに、そのオーガナイズドセッションでの議論を踏まえ、改善したものを、8 月に開催予定の IASDR での学術会議連携プログラムでも紹介し、世界に発信する予定です。

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

Design シンポジウムは、日本のデザイン・設計に関する学会の共催により、2 年に一度開催されています。現在は、当学会に加え、日本建築学会、日本機械学会、日本設計工学会、精密工学会、人工知能学会の 6 学会が共同で運用しています。

今年度は、日本設計工学会が幹事学会として実施される Design シンポジウム 2014 に向けた準備の年となります。具体的には、各学会からの委員が集い、次のシンポジウムにおける構想を練っていくことになります。

当学会からは、小林昭世先生、永井由佳里先生、松岡の 3 名に加え、若手グループへは小野健太先生が参加しており、デザイン・設計に関わる他学会との連携を深めることで、広い視野の次年度のシンポジウムのテーマ設定などの議論を進めていく所存です。

IASDR 担当

担当理事 古屋 繁

本年度は、なんといっても、2013 年の東京大会の実施に全力を投じることとなる。すでに、4 月から論文審査をすすめ、6 月中旬に最終の採否決定と通知を行い、参加登録を開始することとなる。また、Panel Session, Doctoral Colloquium, Workshop, Tokyo Design Visit などのプログラムの確定と広報をすすめ、大会実施のための具体的作業に全力を注入する。

10 年ぶりの日本で開催する国際デザイン学会であり、日本学術会議・日本感性工学会との共同主催でもあるた

め、日本デザイン学会全体の取り組みとして、学会、学会員の皆さんのご協力をお願いし、大会成功に向けて努力をしていきたい。

また、IASDR2015 の開催地について IASDR 理事会で協議ならびに投票を行い、QUT Brisbane を開催主体として決定した。開催日は 2-5 November 2015 となる。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学

担当理事 清水 泰博

本年度は昨年度のテーマ採択の折の教訓を踏まえ、採択の可能性のある時期を把握した上で、藝術学関連学会連合のシンポジウムとして相応しい内容、また他学会からのパネラー参加のしやすいものとする 것을考慮した提案を行いたく思っています。

昨年度のシンポジウム企画段階においては、日本デザイン学会会員の後藤泰徳氏からの「芸術と科学～分化から統合の時代へ」というテーマ案を頂き、デザイン学会からの提案としました。この提案は藝術学関連学会連合の会議においても高い評価を得たものの、一昨年に日本デザイン学会からのテーマ採択があったこともあり、少し過ぎ過ぎではないかとの指摘があり、またパネラーを他の加入学会から出すのが難しいのではないかとといった指摘もあって、残念ながら非採択となった経緯がありました。ただこのテーマ自体は藝術学関連学会連合・西村会長からも、興味深い内容なのでいずれ行うことも視野に入れて記録に残しておくようにとの指示も受けております。ですのでそのような機会には再度提案することも考えられるかと思えます。またこれ以外にも今年度も積極的なテーマ提案をお願いすることがあるかと思えますが、その折にはよろしくお願い致します。

日本学術会議

第三部／理学・工学

担当理事 森田 昌嗣

学術会議の動向をみながら第3におけるデザイン学の位置づけ等を再度確認し、活動内容等に関する検討を行う予定です。

横断型基幹科学技術

研究団体連合

担当理事 松岡由幸

元来、デザイン学は、横断型基幹科学技術の根幹をなす学術領域であり、当学会は、横幹連合における学術上での牽引的立場にあるべきと考えます。この視点に立脚し、横幹連合における当学会の存在感を高めるべく、今年度は、以下のことを実施いたします。

まず、雑誌「横幹」の4月号(Vol.7, No.1)において、前青木会長ご執筆による「日本デザイン学会の活動内容」を紹介しました。これにより、当学会の設立の背景、活動の内容、ADCやIASDRに代表される海外の他学会との交流など紹介するとともに、横幹連合が目指す文理融合を当学会では以前より実践しており、デザイン学がさまざまな領域を統合して問題解決に当たる、まさに知の横断的統合を先導する学問体系であることを訴求することができました。

なお、この雑誌「横幹」の編集に当たっては、当学会から横幹連合の理事として参加している松岡が編集委員長を務めており、具体的な横断的活動への貢献を果たしています。

また、8月に実施されるIASDRでは横幹連合が協賛であり、学術会議との連携プログラム「知の統合としてのデザイン科学と、新パラダイム“タイムアクシスデザイン”」においては、横幹連合との共催のもと、知の統合に関する議論を進める予定です。

日本工学会

担当理事 國澤好衛

日本工学会の「事務研究委員会」の議論は、学協会が抱える喫緊の課題そのものとなっています。その内、公益法人制度改革に伴う法人化への対応および学協会が連携して行う横断的な継続教育については、当学会においても極めて重要なテーマとなっています。特に、今年度は法人化のための委員会を設置し、年度内には方針を確定させるとともに来年度の総会で活論を出したいと考えています。これまでも、日本工学会をベースに他学協会の動向などを探ってきましたが、今後もこの場を活用し法人化や継続教育への有用な視点を会員の皆様に提供していきたいと考えています。

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

本年度は、昨年度からの学生会員制度の定着によって学生会員が更に増加する事が期待されますが、それにとともに問題となりつつある、学生会員の継続・移行手続きの円滑化を進めることが重要と考えます。特に、卒業によって資格が切れる学生会員が正会員に移行してもらえるように働きかけ、正会員数を増加させる取り組みが必要と考えております。

懸案となっている法人化については、昨年度末に発足したワーキンググループを中心として具体的な検討を進め、法人化に踏み切る場合には準備に向けた作業を開始したいと考えております。

各委員会活動、支部活動ができるだけ円滑に進むよう協力し、学会活動を支えていきたいと思っております。特に近年活発化している各支部の活動に対して、本部事務局としてもできるだけ支援していきたいと考えています。また、近々予定されている国際学会開催に向けてこれから準備が本格化するため、本部事務局としても対応すべき事項が

増えると思料されます。国際学会の成功のため、本部事務局としても協力していきたいと考えております。関連して、本学会の情報や各種手続き文書など、今後は更なる国際化の対応を進める必要があると考えています。

事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えたスムーズな対応を心がけていきたいと思っておりますので、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

第1支部

支部長 両角 清隆

2年に一度開催している第1支部大会を、本年9月7日(土)に仙台市の東北工業大学長町キャンパスで実施する。研究発表のほか、大学間に学生の交流を図るため、大会前日の9月6日(金)から学生ワークショップを開催することを予定している。

第2支部

支部長 浅沼 尚

本支部では、本年度、多くのデザイナーとデザイン分野の教育・研究者が直接対話を可能とする産学連携イベントを企画いたします。

JIDAやデザイン理論・方法論研究会との連携のもと、現場のデザイナーと教育・研究者とが意見交換を行える場を設定する予定です。また、若手デザイナーや学生に向けたデザイン方法に関する講習会の実施等を予定しております。

具体的には、8月1日に慶應義塾大学において、デザイン塾「知の統合としてのデザイン科学と、それを応用するタイムアクシス・デザイン」を共催し、デザイン科学の応用事例について講演会ならびに意見交換会を行うことを計画しております。

本年度も副支部長：久保光徳先生、幹事：北村武士先生との連携のもと、関東圏の多くの学生会員の方々にご参加いただけるよう、裾野の広い活動の展

開を目指しております。

第3支部

支部長 國本 桂史

昨年度までの会員交流と活動の活性化に加え、平成25年度は学生会員の拡大も目標として、下記の4事業を実施します。

1. デザインカフェ事業

地域や他分野の人々との交流とデザイン啓蒙等を目的として、気軽にディスカッションができる“カフェ”形式の小規模講演会を本年度2回開催します。

【第1回】

日時：9月上旬（日時未定）

講師予定：生田 幸士 教授（東京大学大学院 先端工学領域 教授）

場所：愛知県名古屋市市内にて調整中

【第2回】

日時：12月中旬（日時未定）

講師予定：祖父江 和哉 教授（名古屋市立大学大学院 医学研究科 麻酔・危機管理医学分野）

場所：愛知県名古屋市市内にて調整中

2. 第3支部研究発表会・懇親会

第3支部会員がどのようなデザイン活動や研究を行っているのかを、発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通してより深い相互交流を図ることを目的としています。例年3月に年1回開催し、学会発表の練習機会ともなっています。口頭発表とポスター発表があります。

日程：2014年3月中旬予定

開催校：調整中

3. 会員間の情報交流の充実

メーリングリストサーバーを変更しWebサイトの充実により、会員間の情報の受発信の活性化を目指します。また、積極的な他支部との情報や人的交流も図ります。

4. 学生会の構成

各大学より1名程度を学生会員リーダーとして学生会を構成し、学生会員の相互交流および支部研究発表会への参加も含め積極的な学会参加を促進します。学生会を中心としたツアーイベ

ント等の開催を検討しています。

第4支部

支部長 三橋俊雄

第4支部では、1)ユニバーサルデザイン研究会、2)インタラクシオンデザイン研究会、3)地域生活文化研究会、4)近畿・中国・四国地区研究会など関西地区における学術研究活動を行う。ユニバーサルデザイン研究会では、実践的なUD活動を推進するための研究会を開催する。インタラクシオンデザイン研究会では、当該分野の研究者やデザイナーを招いて講演会を開催し、新たなライフスタイルとインタラクシオンデザインの関係について参加者と議論する。地域生活文化研究会では、フィールドワークを通して生活文化のあり方を見つめる活動を積み重ねていく。近畿・中国・四国地区研究会では、横断的なテーマ設定で研究会を企画開催し、地域間・大学間連携による議論の場を創出していく。また、メーリングリストを活用し、地域ネットワークのさらなる拡大をめざしていく。以上のほかに、関連学会支部との研究会等の共催も、支部メンバーの協力を得て検討していく。

第5支部

支部長 伊原 久裕

第5支部では、平成25年度も引き続き、学生作品展と研究発表会・懇親会の2つの事業の実施を目指して活動する予定です。

学生作品展については、「九州・沖縄地区学生デザイン展～デザイン教育の現場から～」と名称を変更して、6月10日～16日にJR博多シティ2階のホールでの開催を予定しています。過去2年提供いただいていたBiVi福岡の会場が事情により使用できないことが判明し、急遽検討した結果JR博多シティ（博多駅ビル）2階のホールで開催することになりました。JR博多シティ様のご好意により、無料で提

供いただいたことから実現しました。また名称の変更は、大学別ではなくデザインジャンル別の展示計画に改めたこと、卒業・修了作品のみならず授業などで制作された作品も含めること、これまでの7大学に限らず広く第5支部会員の参加を呼びかけることなど、これまでの企画を再検討した結果によるものです。また、研究発表会・懇親会については、今年度は崇城大学の担当により、熊本市の崇城大学で10月5日に開催される予定です。

教育部会

主査 金子 武志

年間テーマ「教養としてのデザイン」

昨年度テーマの「基礎デザイン」から続いて、初等～高等教育を通して視野にいられてゆくべきデザイン教育についてとりあげ、様々なフィールドから講師を招聘する予定。

第1回6月28日（金）18:00～20:00
日本大学芸術学部

「教養としてのデザイン」講師：中林 鉄太郎（テツタロウデザイン代表 / 日本大学芸術学部デザイン学科非常勤講師）

第2回9月20日（金）18:00～20:00
都立工芸高校 現在企画中

第3回1月24日（金）18:00～20:00
日本デザイン専門学校 現在企画中

平成25年度（平成25年4月1日-平成26年3月31日）予算（案）

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	予算額内訳	
平成24年度繰越金	12,001,692		12,001,692
1 会費（現）	16,588,000	正会員@13,000×1,513名×0.8(徴集率) 学生会員@6,500×164名×0.8(徴集率)	15,735,200 852,800
2 会費（新）	1,730,000	正会員@18,000×60名(一般 入会金:5,000, 年会費:13,000) 学生会員@6,500×100名(入会金:免除, 年会費:6,500)	1,080,000 650,000
3 賛助会員費（現）	910,000	29件	910,000
4 賛助会員費（新）	30,000	@30,000×1件	30,000
5 年間購読会員費（現）	1,475,000	59件(¥1,475,000-)	1,475,000
6 年間購読会員費（新）	50,000	@25,000×2件	50,000
7 広告費	200,000	@50,000×4件	200,000
8 学会誌掲載別刷料・負担金	4,140,000	論文集別刷料・カラー印刷負担金(@30,000×12×6) 作品集別刷料・カラー印刷負担金(@70,000×10+@100,000×4) 平成24年度作品集別刷料・カラー印刷負担金	2,160,000 1,100,000 880,000
9 概要集売上金	1,750,000	@3,500×500冊	1,750,000
10 雑収入	850,000	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他	50,000 800,000 0
計	39,724,692		39,724,692

■支出の部

項目		予算額	予算額内訳	
本部事務局 & 理事会関係		9,217,000		
1	本部事務局経費	7,917,000	消耗品代	250,000
			運営経費(春季大会出張費用含む)	200,000
			パート雇用費(@150,000×12,@150,000×2)	2,100,000
			通勤費(@6,000x12)	72,000
			施設設備費	500,000
			通信費及び電話代金	1,000,000
			印刷代	250,000
			雑費	150,000
			会費引き落とし経費	150,000
			賃貸料(@150,000×12ヶ月)	1,800,000
			光熱費	140,000
			アルバイト雇用費(宛名整理、書類作成、発送、名簿作成補助等)	1,150,000
			税金準備金、労災保険料	155,000
2	理事会運営費	300,000	会場借用料、理事会運営経費等	300,000
3	役員活動費	600,000	役員の諸活動に対する補助	600,000
4	選挙経費	400,000	選挙に関する費用	400,000
学会誌審査・編集関係		1,470,000		
5	論文審査委員会経費	480,000		480,000
6	作品審査委員会経費	250,000		250,000
7	学会誌編集・出版委員会経費	90,000		90,000
8	特集号編集委員会経費	650,000	第20巻4号編集委員会	130,000
			第21巻1号編集委員会	130,000
			第21巻2号編集委員会	130,000
			第21巻3号編集委員会	130,000
			第21巻4号編集委員会	130,000
学会誌印刷・通信関係		23,870,000		
9	印刷費	21,770,000	平成24年度論文集(1冊)	1,250,000
			平成24年度特集号(4冊)	2,800,000
			平成24年度作品集(1冊)	2,500,000
			論文集(@1,250,000×6冊)	7,500,000
			特集号(@900,000×4冊)	3,600,000
			作品集(@2,900,000×1冊)	2,900,000
			概要集CD(900セット)	800,000
			封筒代	420,000
10	出版物通信費	2,100,000	郵送料・事務代行料金	2,100,000
大会関係		2,027,500		
11	大会補助費	750,000	平成25年度秋季大会補助	250,000
			平成26年度春季大会補助	500,000
12	春季大会概要集編集委員会経費	557,500	前年度未払い分	200,000
			編集費・書類作成費(平成26年度分)	10,000
			アルバイト雇用費(平成26年度分)	170,000
			通信費(平成26年度分)	20,000
			演題登録システム(PASREG)利用料	157,500
13	春季オーガナイズドセッション費用	400,000		400,000
14	学会セミナー費用	100,000		100,000
15	総会準備経費	20,000	総会経費、委任状・資料印刷代	20,000
16	学会各賞選考委員会経費	140,000	書類作成費(学会各賞推薦状・資料等)	5,000
			通信費	5,000
			賞状・記念品代	80,000
			会議費	50,000
17	国際デザイン会議	60,000	国際デザイン会議会費(500\$)	60,000
			国際デザイン会議活動費(運営会議活動費)	0
委員会関係		1,550,000		
18	委員会経費	200,000	共通費	200,000
19	研究部会共通経費	400,000	共通費(現行16研究部会)	400,000
20	支部活動補助費	900,000	@150,000×5支部+@150,000(第一支部繰越分)	900,000
21	市版図書企画・編集経費(デザインの歩み)	50,000	編集費	50,000

広報関係		550,000		
22	広報費	550,000	大会ポスター、ちらし作成費(2年分)・通信費	300,000
			学会パンフレット作成費	100,000
			ホームページリニューアル	100,000
			その他	50,000
その他		1,040,192		
23	学協会関連	405,000	学術会議活動費(@60,000+@30,000)	90,000
			芸術関連シンポジウム活動費	15,000
			日本工学会活動費	10,000
			日本工学会会費	40,000
			CPD協議会会費	50,000
			JABEE年会費	100,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	30,000
24	予備費	635,192		635,192
25	次年度繰越金	0		0
計		39,724,692		39,724,692

[特別会計]

項目	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	予算額内訳	
学会本部事務局常設基金	11,279,349	15,279,349	IASDR2013から返済	4,000,000

名誉会員賞贈呈

8 4 号	青木 弘行 氏
8 5 号	荒井 利春氏
8 6 号	工藤 卓 氏
8 7 号	酒井 正明 氏
8 8 号	佐藤 啓一 氏
8 9 号	梨原 宏 氏
9 0 号	長谷 高史 氏
9 1 号	中嶋 猛夫 氏
9 2 号	西川 潔 氏
9 3 号	原田 昭 氏
9 4 号	宮崎 清 氏
9 5 号	和田 精二 氏